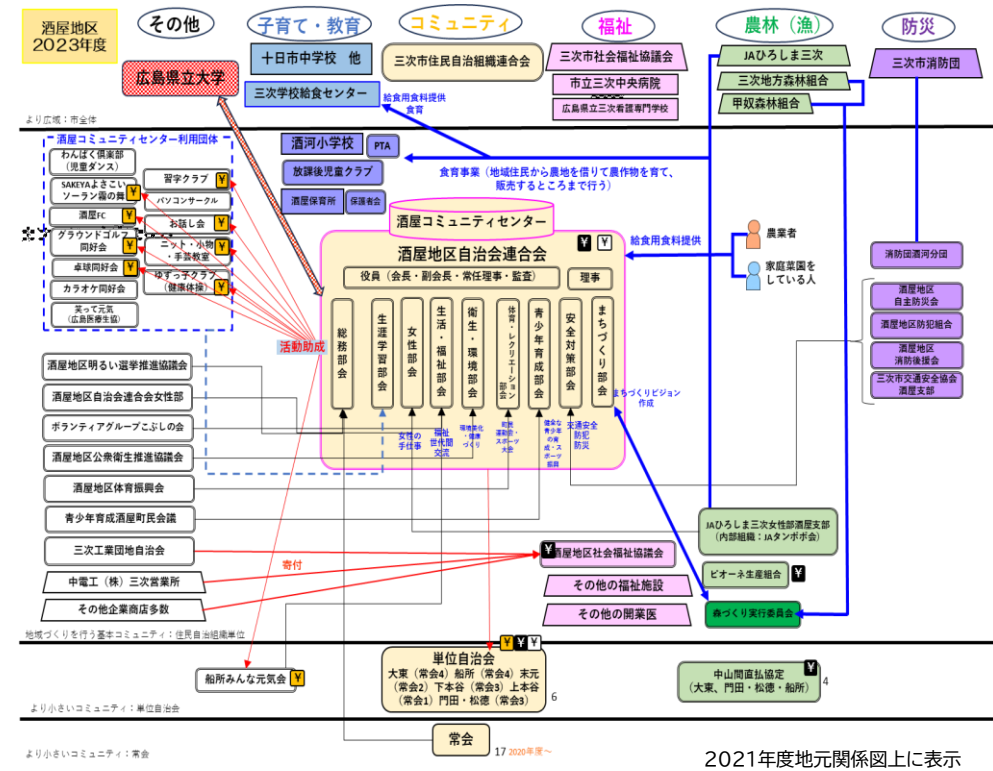


01 取り組み概要

実施主体	酒屋地区自治会連合会及び県立広島大学
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 酒屋地区住民が県立広島大学の学生と協働することで、酒屋地区の活性化を図りたい。 今後、学生や関係者による発信活動に期待し、三次市の知名度の向上を図りたい。
内容	<ul style="list-style-type: none"> 女子硬式野球ワールドカップ予選リーグ会場の盛り上げ策として、会場の入り口付近に竹灯笼やお花のモニュメントを設置して選手や関係者をもてなしました。 材料となる孟宗竹を地域の放置竹林から伐採して、更に、放任柿を利用して柿渋を作り活用することにより、猪や鹿の隠れ潜むところを減少させ、獣害対策の一環としました。 光源は、廃油や牛乳空パック等を材料にしてキャンドルを作成し、利用しました。 公衆衛生推進協議会が育てた色とりどりのマリーゴールドにより、「I♥MIYOSHI」と表示したお花のモニュメントを作成しました。 竹灯笼のキャンドルは、会期中9月13日から17日の連日、夕刻から試合終了時まで点灯しました。

02 取り組み体制



2021年度地元関係図上に表示

03 特徴・工夫

- 酒屋の住民と県立大学生とが協働
 - WBSC予選リーグ会場に竹灯笼やお花のモニュメントを設置。
 - 増え続ける放置竹林から孟宗竹を伐採、裁断加工。
 - 家庭で廃棄する食用油等を活用したキャンドルが竹灯笼の光源。
- 地域の特性を生かした事業
 - 放置竹林や放任柿を活用することで、獣害対策となった。
- 森づくり実行委員との連携
 - 竹林の伐採や柿渋づくりなど、地域住民の豊富な知識と経験を集結。

04 成果と課題

成果

- 竹灯笼を作り設置したWBSC予選リーグ会場で、見る人を楽しませ、温かいおもてなしができた。
- 大学生とのコラボで発想がふくらみ、交流ができた。

課題

- 今後も大学生とのつながり続けていくためには、どうしたらよいのか。
- 獣害対策の具体的なやり方と実践。

05 取り組みの様子

廃油を利用したキャンドルづくり

夏休み期間中に、不要となった食用油や空の牛乳パックなどを利用してろうそくを作成しました。

竹灯笼作り

酒屋自治会、広島県立大学の学生、市職員が協働して、竹の切り出し、裁断、穴あけ加工等を行い、竹灯笼を作成しました。ひとつひとつの手作業は大変でしたが、素晴らしい出来栄となりました。

花モニュメント設置

三次きんさいスタジアムで竹灯笼の近くに花モニュメントを作るため、花を育て、会場に運び、花文字に植え込みました。

竹灯笼とお花をきんさいスタジアムに設置

完成した竹灯笼を、会場となる三次きんさいスタジアム正面入り口付近に設置し、初日夕刻に、キャンドルを点火しました。

柿渋づくり

獣害対策は、餌になるものを取り除くことも必要です。そのために、不要な柿を採り、柿渋作りをし、有効活用しました。

声

- 住民の
- ☆ めったにないワールドカップ予選が地元で行われ、おもてなし事業に参加出来て、良かったです。
 - ☆ 大学生の若い人達と一緒に出来たので、発想もふくらみ、良い交流となった。
 - ☆ 竹にもいろんな活用方法があると再確認できた。
 - ☆ 今後も学生さん達といろいろと取り組みができたらと思った。

声

- スタッフの
- みなさんがたくさん参加してくださり、ありがたかったです。
 - 大変なことも多かったけど、素敵な竹灯笼が出来、見る人に喜んでもらえて嬉しかったです。
 - 大学生とコラボでき、今後の参考にもなりました。